

会社設立70周年を 迎えるにあたって思うこと

荒 卷 哲 也
(株式会社柳川合同)
代 表 取 締 役



弊社は2024年4月28日で設立70周年を迎えます。4人の志ある方が集まり出資し、創業社長が19年間、前任の私の父である現会長が29年間、私が22年間、トップである社長をさせていただきつなぐことができしております。弊社は、「豊かな会社の創造～会社、社員、御客様、社会、全てを豊かに～」を社是として、福岡の県南の柳川市に本社を置き、主としてトラック運送、倉庫業などの物流事業を行っております。これから先も社員を大切にす気持ちを持ちながら経営を行い、100年、200年と続く会社になっていければと強く思います。

設立70周年を迎えるにあたって、一番に感じることは「すべてに感謝」という気持ちです。振り返ってみますと、私が代表になってからでも倒産の危機はありました。その困難をどうやって乗り越えてきたかという、具体的な事は思い浮かびません。「運が良かった」「みんなに助けてもらった」といった言葉しか見当たりません。「誰かが頑張ったから」、「自分が頑張ったから」ではなく、携わってくれた全ての方がいて、70年間歩んでこれたと心から感謝しています。

私の会社での物事を決めるときの口癖は、「だっでん良うなからんとでけんばい（みんなが良くないといけない）」「でんかなる（どうにかなる）」です。社長として、社員を大切にしなければならぬ、みんなが良くならぬといけないと肝に銘ずるようになるには、2つのシンギュラーポイントがありました。

一つ目は、2006年3月24日の一番の大口取引先の経営破綻です。当時の当社の売り上げの30%を占めていた取引先の民事再生申請です。約1億3千万円ほどの焦げ付きでした。私は、すぐに手を打ってリストラを進めました。80人ほどのパートタイマー、10名ほどのドライバーを解雇しました。半月ほどが経ち、資金繰りも目途が立ち、これで何とか生き残れると感じていた矢先でした。残っていたドライバーから、労働組合結成の書面がきました。「会社が大変なときに、どうしてこんなことをするのか」と悔しさでいっぱいでした。組合幹部の人たちからは、会社で会って挨拶しても無視されたりもしました。毎日、家を出て会社が近づいてくると、動悸がしました。しかし、その後団体交渉などを続けて話し合いを進めていくと、私の不徳なところが沢山出てきました。「そこは自分が悪かった、改善していこう」ということ

が何度もありました。ここが、「だっでん良うなからんとでけんばい」と経営上も社会生活でも思うようになったスタートでした。この時期に次の言葉で助けられた記憶があります。志ネットワーク青年塾の上甲晃塾長（元松下政経塾塾頭）の言葉です。「この逆境を如何にしてプラスにするか。今後5年、10年してから、あの時は本当に辛かった。けれども、今から考えたらあの時の事件のおかげで今がある、と言えるような対応が必要である。人は苦しいとき辛いとき誰でも逃げたくなるものだ。しかし、逃げてしまったら負けだ。逆境の時に踏みとどまるのは誠に辛い。しかし、その時に耐えることが第一の試練である。自分に向けて石が投げつけられる。まるで無能呼ばわりされる。自分の存在そのものが否定される。その時にぐっと歯を食いしばり言葉少なく耐え忍ぶのである。辛抱できるか、まさしく辛抱である。そして、辛抱は心棒をつくり、信望を与えてくれる元となる」。この言葉があって、この言葉を毎日のように読みながら心を強く持って乗り切ることができました。今は、労使がいがみ合った時があったのが信じられないほど円満にさせてもらっていると感じています。人生に無駄な経験は何もない、といいますが、会社の困難を乗り越えるためにリストラという手段を使わざるを得なかったことは今でも悔いが残ることです。ほかの方法はなかったのか、他の方法が選択できるような経営をやってこなかったのか、今となっても悔いが残ることです。松下幸之助さんがおっしゃられた「ダム式経営」ができていれば、こんなことはせずに済んだはずだと。どんなことがあってもリストラしないでいい会社になっているか、常に自問自答しながら経営を行っております。

二つ目は、2009年7月12日に弊社の長距離ドライバーがトラック同士の正面衝突で亡くなったことです。社員の命を守れなくて会社としての存在意義があるのかと非常に悩みました。安全に仕事をするというのは言わなくても当たり前のことだという意識が私にはありました。そこが大きな誤りでした。「安全」は声に出して行動に移していかないと、いつか忘れがちになります。何よりも大事なものは命です。命がなければ全てが成り立ちません。会社での生活はもちろん全ての人生は命があって初めて語られます。まずは安全安心でなければなりません。その頃から毎日朝礼で「今日も一日元気で明るく楽しく安全にお願いします」と言うようにしています。安全安心な会社になるためには、安全安心にしようという強い決心が第一歩ではないかと感じます。しかし、会社のすべての結果に神仏はありません。具体的な実践から安全な会社へと進む段取りは経営者が為すべきことでもあります。小さな実践を積み重ねて、安全安心な会社へと進んでいきます。

この二つの失敗が私の経営、社会生活に大きく影響したと思います。これからも「だっでん良うなからんとでけんばい」「でんかなる」を口癖にして、心棒を持った信望のある経営者をめざして、誰にも負けない努力をし、株式会社柳川合同を発展させていきます。

また人生のテーマとして、「人としての成長の助けをできる人となる。そのためには、自分が人として成長続ける」を掲げてます。いつか会社人生が終わっても永遠に続くテーマです。「一生小僧、万事修行」を心得として、追い求めていきます。言行一致の人だったと言ってもらえるように精進していきます。

皆様、今後ともよろしくお願いたします。